

## 日本人の仕事に対する考え方を問うアンケート調査結果について

### － 調査のまとめ －

1. 中部開発センターでは、本年9月に「中部圏の製造業の将来像に関する専門分科会」（分科会長：水谷研治中京大学教授）を設置し、中部圏の製造業のあり方について調査を行っている。その調査の一環として、中部圏における就業者の勤労意欲の特徴をみるために、インターネットを利用したアンケート調査を実施した。
2. 従来、わが国の製造業の強みとして従業員の勤労意欲の高さが一因とされてきたが、このアンケートでも、日本人の仕事に対する前向きな姿勢をみることができた。ただ、その中であって、中部圏の製造業に勤める人たち個々人の勤労意欲が特に強いかというと、必ずしもそうとはいえないことがわかった。
3. 一方、何か問題が発生したときに職場全体で協調して問題解決に取り組む姿勢は、中部圏の製造業の就業者が全国平均に比べ強いことがわかった。また、中部圏はわが国の中でも会社を独立して起業する志向が弱く、より安定志向が強いとされてきたが、アンケートの結果をみる限り、むしろ会社から飛び出して起業する志向が、全国の製造業に比べると強いことがわかった。
4. 中部圏の製造業に勤める人たち個々人の勤労意欲が全国に比べ必ずしも高いとはいえないにもかかわらず、中部圏の製造業が全国に比べ高いパフォーマンスをあげているのは、協調して問題解決に取り組む強さでも示されているように、個々人ではなくチーム、集団での強さに秘密があるように思われる。つまり、個々人の勤労意欲が特段高くなくても、システムがきちんとできあがっているため、チームとしては高いパフォーマンスを発揮できるということではなかろうか。

## 1 調査の目的

- 中部圏（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀の9県）における製造業に関する調査の一環で、従来わが国の製造業の強みとされる従業員の勤労意欲について、中部圏の特徴をみるためにインターネットを利用したアンケート調査を実施した。
- 就業者の勤労意欲の高さや仕事に対する考え方について、様々な点からわが国全体の傾向と中部圏を比較することにより、その特徴を明らかにすることとした。

## 2 調査の実施概要

### ◆ 調査方法

- 日本全国から広くサンプルを抽出するため、インターネットを利用したホームページ上でアンケートを行った。
- なお、調査対象は日本国内で現在就業している者とし、2002年9月26日（木）から2002年10月27日（日）の計32日間実施した。

### ◆ 回答者の属性

- 有効回答者数注 … 10,133人
- 回答者の属性
  - ・ 男女比 … 男性の占める割合が54.4%とやや高かった。
  - ・ 年齢層 … 30歳代（35.3%）、20歳代（28.8%）、40歳代（23.9%）の順に高かった。
  - ・ 回答者が仕事をしている地域  
愛知県（16.1%）で仕事をしている人の割合が高かったものの、広く全国に分布しており、全47都道府県から回答を得られた。

## 3 調査結果の概要

本アンケート結果から、中部圏の就業者の特徴をまとめると以下のことがわかった。

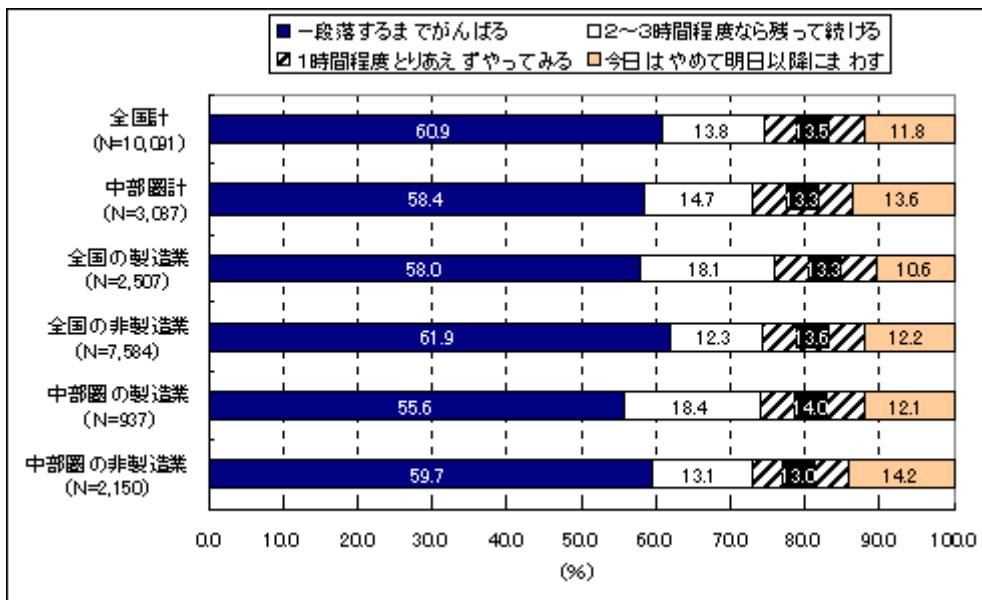
（1）アンケートでは、日本人の仕事に対する前向きな姿勢をみることができた。ただ、その中において、中部圏の製造業が全国に比べ必ずしも高いとはいえない

調査結果をみると、わが国の就業者における仕事に対する考え方について前向きな姿勢がみられた。一方、中部圏の製造業における就業者の勤労意欲は全国平均を下回る項目もみられ、必ずしも高いとはいえない状況にあることがわかった。

【仕事の区切りについての考え方】

- 例えば、仕事の区切りについての考え方をみると、全回答者の平均では、「一段落するまでがんばる」と回答した人の割合は、約6割と最も高かった。また、「今日はやめて明日以降に回す」と回答した人の割合は1割と最も低かった。欧米では、終業時間と同時に帰宅する人が多いとされており、わが国の就業者の勤労意欲の高さが顕著に出た。
- 一方、中部圏をみると、「一段落するまでがんばる」と回答した人の割合は全国に比べ低く、「今日はやめて明日以降にまわす」と回答した人の割合は高かった。
- また、全国の製造業と中部圏の製造業の就業者を比べると、「一段落するまでがんばる」という項目は中部圏の製造業の方が低く、「今日はやめて明日以降に回す」という項目は中部圏の製造業の方が高かった。

グラフ1 仕事の区切りについての考え方



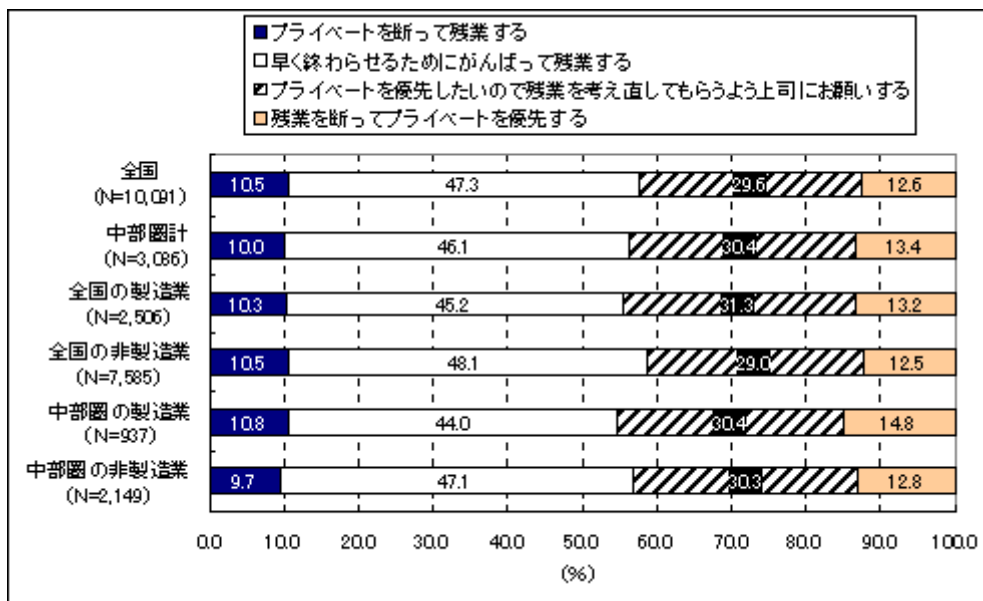
【仕事とプライベートの優先度】

- また、仕事とプライベートとの優先度をみても、仕事の区切りについての考え方と同様の傾向を示した。
- 全国平均をみると、最も回答した人の割合が高かったのは、「早く終わらせるためにがんばって残業する」で5割近くを占めた。また、「プライベートを断って残業する」と回答した人の割合は最も低く、プライベートを完全に犠牲にして仕事をする人は少ないことがわかった。
- 一方、中部圏をみると、「早く終わらせるためにがんばって残業する」が全国に比べ低かった。
- また、全国の製造業と比べても、中部圏の製造業では「早く終わらせるためにがんばって残業する」と回答した人の割合は低く、「残業を断ってプライベートを優先する」と回答した人の割合は高かった。

た。

- わが国の就業者は、プライベートは大切にしつつも残業せざるを得ないと考える人が多く、中部圏の製造業でも同様の傾向を示している。しかし、「残業を断ってプライベートを優先する」の割合が全国に比べ高く、仕事よりもプライベートを重視する傾向が全国に比べ若干強みられる。

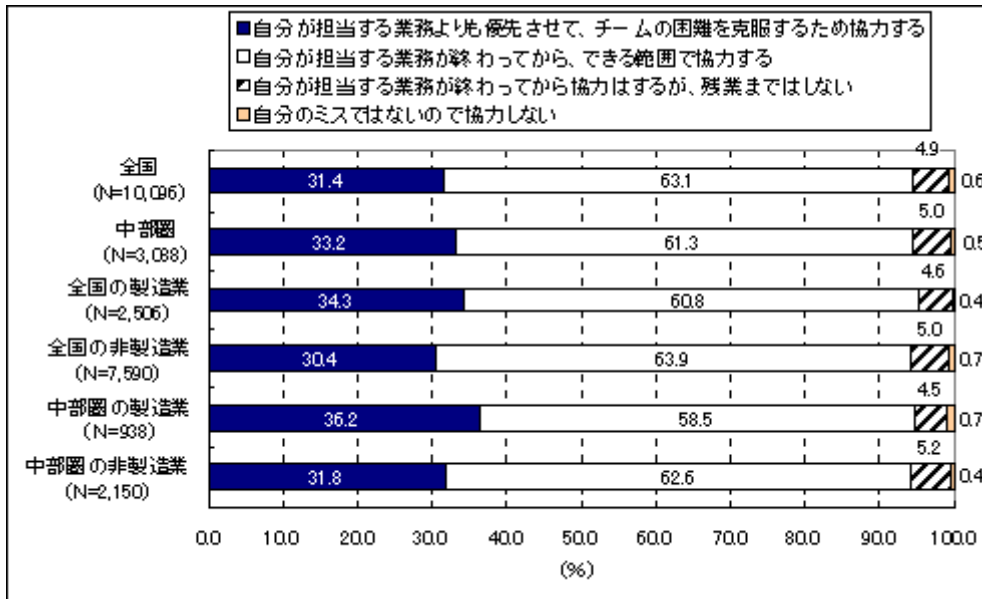
グラフ 2 仕事とプライベートの優先度



(2) 中部圏の製造業の就業者は、職場で協調して仕事に取り組むことには積極的である

- 何か問題が発生したときに、職場全体で他の社員と協調して取り組む姿勢についてたずねたところ、全国平均では、最も多くの人々が回答したのが、「自分が担当する業務が終わってから、できる範囲で協力する」であり、6割を占めた。次いで、「自分が担当する業務よりも優先させて、チームの困難を克服するため協力する」と回答した人が3割を占めた。
- 9割を超える人が職場で発生した問題に協力的な姿勢を示しており、困難が生じた際に、わが国の就業者の大部分は問題解決に向け職場全体で積極的に取り組むことが確認された。
- 一方、中部圏をみると「自分が担当する業務よりも優先させて、チームの困難を克服するため協力する」とした人の割合が全国に比べ高かった。
- また、「自分が担当する業務よりも優先させて、チームの困難を克服するため協力する」とした人の割合は、全国の製造業と比べても中部圏の製造業の方が高く、中部圏の製造業に従事する人の職場全体の問題に協調して取り組む姿勢が強いことがわかった。

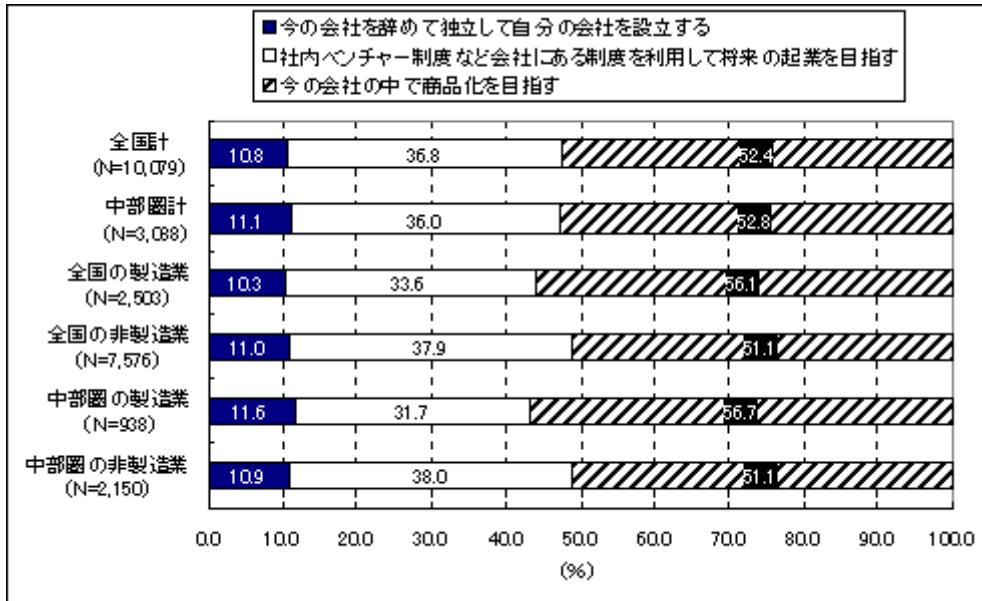
グラフ 3 職場における集団活動に取り組む姿勢



(3) 中部圏では、安定志向については全国同様強いが、起業を目指す志向は決して弱くはない

- ここでは、商品化できそうなアイデアをもっているときに、会社からスピンアウトして起業を目指す意欲の強さについてたずねた。全国平均をみると、最も回答した割合が高かったのは「今の会社の中で商品化を目指す」であり過半数を占めた。また、「今の会社を辞めて独立して自分の会社を設立する」と回答した人は1割にとどまった。
- また、全国の製造業と比べると、中部圏の製造業では「今の会社を辞めて独立して自分の会社を設立する」と回答した人の割合が若干高かった。
- わが国の就業者は、商品化できそうなアイデアを持っていても、スピンアウトして起業にチャレンジするのではなく、今の会社にとどまって仕事を続ける安定志向をもった人が多い。この傾向は中部圏においても同様であるが、この地域の製造業では、起業を目指す意向が全国と比べて必ずしも弱いとはいえず、むしろ強いことがわかった。

グラフ 4 起業に対する考え方



#### 4 アンケート調査のまとめ

- 従来、わが国の製造業の強みとして従業員の勤労意欲の高さが一因とされてきたが、このアンケートでも日本人の仕事に対する前向きな姿勢は良く現れている。ただ、その中であって中部圏の製造業に勤める人たち個々人の勤労意欲が特に強いかというと、必ずしもそうとはいえないことがわかった。
- しかし、それにもかかわらず中部圏の製造業が全国に比べ高いパフォーマンスをあげているのは、協調して問題解決に取り組む強さでも示されているように、個々人ではなくチーム、集団での強さにその秘密があるように思われる。つまり、個々人の勤労意欲が特段高くなくても、システムがきちんとできあがっているため、チームとしては高いパフォーマンスを発揮できるということなのではなかろうか。

以 上

注：有効回答者数は 10,133 人であるが、設問によっては未回答者もみられたため、各設問の合計は一致しない。また、グラフ中の N はそれぞれの集計方法による有効回答者数を示す。